

2024 年度第 2 四半期 決算・経営説明会 質疑応答（要旨）

- Q1：** 日本ダイナウェーブパッケージング（NDP 社）で実施した大規模メンテナンスによる影響を確認したい。
- A1：** 今回、NDP 社は、通常よりも長い大規模メンテナンスを実施したが、その中で新たに手を入れた方がよい箇所が見つかったため、休転期間を延長した。また、第 1 四半期に大きな寒波が襲来し、操業への影響があった。上期は、この 2 つの要因によって、生産量が計画に届かなかった。現在、操業は非常に安定しており、巡航モードに戻った。下期の収益は持ち上がると見ている。
- Q2：** Opal 社の通期での改善見込み額は、従来プラス 59 億円だったが、今回プラス 38 億円に見直している。理由を聞かせてほしい。
- A2：** メアリーベール工場は、生産体制を大規模に見直す中、最適操業条件の確立に苦労した。また、パッケージ事業は、豪州全体での段ボールの売れ行きがさほど良くなかった。その中で、Opal 社は販売数量を 4～5%伸ばしたが、計画には届かなかった。
- Q3：** 紙・板紙事業は、第 1 四半期から第 2 四半期にかけてやや減益となっているが、理由を聞かせてほしい。
- A3：** 古紙価格上昇の影響が大きい。
- Q4：** 印刷用紙の値上げに対する考え方を聞かせてほしい。
- A4：** 足元は、労務費や物流費のコストが引き続き上昇している。また、為替動向をはじめ、原燃料価格の動向も不透明な部分がある。今後、コストアップが続いて値上げが必要な環境になれば、しっかりと対応していく。
- Q5：** Opal 社メアリーベール工場は、2025 年度も 30 ミリオン豪ドルの赤字が残る見通しだが、その原因と改善策について教えてほしい。
- A5：** 生産体制の再構築や固定費削減などさまざまな施策の効果は発現してきている。ただ、輸出原紙の市況悪化が続き、その影響が残る。現在、販売構成の大幅な見直しを進めているところで、2025 年度半ばぐらいから効果が出てくるとみている。
- Q6：** 配当の考え方について教えてほしい。来年度以降は業績の動向を見ながらになるのか。
- A6：** 事業構造転換を進める中で、先を見通すのが難しい状況にある。株主の皆さまに対しては本当に申し訳ない気持ちでいっぱいだが、当社が置かれている状況をご理解いただけますと幸いです。

- Q7：** Opal 社や NDP 社の説明を聞くと、修繕費が思ったよりも発生している印象。修繕費は今後
も追加で発生する可能性はあるのか。
- A7：** 国内の工場も同様だが、老朽化の問題があるので、予防保全はやらないといけない。ただ
漠然と修繕費をかけるのではなく、必要な修繕はしっかりやりながら、全体としては修繕
費を抑える工夫をしていく。
- Q8：** 有利子負債圧縮の加速について新たな手立てがあれば教えてほしい。
- A8：** 投資の厳選、資産の圧縮は引き続きしっかりと行い、バランスシートの改善につなげる。
純有利子負債 7,100 億円は、2025 年度末における最低限のレベルと考えている。次の中期
経営計画ではさらなる圧縮を図っていきたい。

以上